

台風シーズンが到来 風水害に備える



忘れない 下妻市でもあった大水害

昭和61年8月の台風10号による大水害。小貝川の濁流の猛威が高道祖地区に流れ込み、一面が水浸しになる事態を皮切りに、下妻、大宝、騰波ノ江地区など市内のいたる所で災害が続発し、家屋や道路、農作物などに大きな被害をもたらしました。(写真：高道祖地区の祝橋・国道125号周辺)

全国的に記録的な大雨や台風が続いています。今年の台風8号・11号では、沖縄県・三重県にこれまで経験したことのない大雨特別警報が発表され、停滞した前線の影響で広島県には大規模な土砂災害が発生しました。下妻市でも過去に小貝川の洪水が発生しており、いつ風水害が起こるか分かりません。自分たちの身を守り、被害を軽減するためには、事前の準備が大切です。

「風水害は、身近な「自然災害」です

洪水
下妻市でも28年前、小貝川で大水害がありました。昭和61年8月、勢力の大きな台風10号が関東に上陸、小貝川流域に25時間で317ミリを記録する大雨を降らせました。その翌日、台風一過の晴天の中、小貝川に架かる真壁街道橋梁部の左岸で昼頃に越水し、高道祖地区に大きな被害をもたらしました。



集中豪雨
異常気象による局地的な大雨による洪水・土砂流が発生し、悲惨な災害が起きています。下妻市でも昨年9月1日に1時間雨量55ミリを記録し、床上浸水が発生しました。本市の市街地は北から舌状台地が張り出していて、愛宕沼(下妻駅東側)、竜沼(下妻二高西側)、砂沼新田地区などに雨水が集中する地形となっています。



土砂災害
下妻市では、騰波ノ江から大宝地区にかけて「土砂災害警戒区域」が指定されています。警戒区域として関係する地区には「下妻市土砂災害ハザードマップ」を配布し、災害への備えをお願いしています。今までに崩れたことがないからといって油断はできません。1時間雨量100ミリを超える大雨が降れば、指定されていない場所でも土砂が崩れることが予想されます。



「風水害対策の基本は情報から

台風や集中豪雨は、襲来時期や規模をある程度予測することができます。テレビやラジオからの最新の気象情報を確認しましょう。市では、災害に関する緊急的な情報を、市ホームページやツイッター、防災無線、広報車による放送などでお知らせします。

市ホームページからの災害関連の情報

<http://www.city.shimotsuma.lg.jp/>

○市からの緊急情報

トップページの「防災・安全・安心」↓「緊急情報」を選択

○雨量・水位情報(国土交通省・川の防災情報)

トップページの「お役立ちリンク」↓「鬼怒川・小貝川水位」を選択

気象庁ホームページからの災害関連の情報

<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>

○茨城県の気象警報・注意報

トップページの「気象警報・注意報」↓全国地図から「茨城県」を選択

国土交通省下館河川事務所テレホンサービス

- 小貝川の水位情報 ☎0296(25)2152
- 鬼怒川の水位情報 ☎0296(25)2175



危険度		種類
高	低	
避難指示	避難勧告	避難準備情報
危険が切迫して、すぐに避難が必要な時、すでに災害が発生した時	河川の水位上昇や気象情報等から判断して、災害が発生する恐れがある時	河川の水位上昇や気象情報等から判断して、避難の可能性が高まった時
直ちに、避難する。まだ避難していない場合は、直ちに生命を守る行動をとる。	避難を始める。まだ大丈夫と思わず、早めの避難行動を心がけましょう。	避難の準備を始める。避難行動に時間を要する高齢者や乳幼児等は避難を開始する。
		市民の皆さんがとるべき行動

「避難情報」は3段階
市では、気象状況や河川水位の状況に応じて、次の3種類に分けて「避難情報」を発令します。刻々と発表される避難の対象地域や避難先などの防災情報を正しく理解し、早めの避難行動を心がけましょう。

避難情報の種類

インタビュー

わがまちの自主防災組織



上宿第八班
自主防災会
会長
古澤 茂さん

備えあれば憂いなし

私たちが住む上宿八班の地区は、坂の下にあるため雨水が流れ込んできたり、水が捌けなかつたりします。1時間の雨量が30ミリを超えると、家の前の道路が冠水し、過去に4〜5回床下浸水を経験しました。床下浸水したり、冠水した雨水が残っていると衛生面が心配になります。これまで、大雨のたびに市から何度も土のうを運んでもらいました。今も地区の北側からの雨水対策には、積んだ土のうをそのまま残してあります。この雨水対策を何とか自分たちで解決できないかと考え、水中ポンプによる排水を市に相談したところ、自主防災組織活動事業費補助金の資機材等整備事業を活用することができると知り、班内で相談して、今年7月に自主防災会の結成に至りました。

水中ポンプを常備した後は幸いにも大雨はありませんが、8月27日に試運転を兼ねた動作訓練を行いました。水中ポンプが常備でき、会員が訓練し、災害への備えができたことは自主防災会を結成して本当に良かったと思っています。今後、水中ポンプで対応しきれない記録的な大雨がないとは言いませんので、自主防災会のみならず、協力して、さらに防災対策を検討していきたいと思っています。



非常時に備える水中ポンプなどの機材類